# 監　査　報　告　書

平成３０年５月２９日

社会福祉法人　春圃会
理事長　丸谷　清人　様

監　事　高橋博明

監　事　菅原貞夫

私たち監事は、平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までの平成２９年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

１　監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

２　監査の結果

(1)　事業報告等の監査結果

①　事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②　理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2)　計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(3)　その他、監事監査に係る意見は別紙のとおりです。

以　上

# 平成２９年度財務関係監査報告

平成３０年６月５日
監　事　髙　橋　博　明

平成３０年５月２９日に春圃苑において、春圃会の平成２９年度事業執行状況並びに収支決算状況の監査を実施したので、その結果を報告致します。

（事業の執行状況）

１、平成２９年度から施行された（一部は平成２８年度）社会福祉法の改正に伴う春圃会の対応については、関係定款等の整備に加え、平成３０年度からの新規事業に係る関係定款等の制定・改正を行うとともに、職員体制の確立に向けての取り組みとケアハウス・ディサービス建設及び保育所建設など、多くの事務事業へ対応し各種事業が執行されました。

２、経営面においては、各種加算の算定と利用者の確保に努め、利用者の立場に立った良質なサービスの提供に向け、介護力向上講習会への職員派遣や人材確保への積極的な取り組みにより、収入確保に努め、経営の健全化・安定化に努められました。

（財務関係）

１、法人全体、福祉事業小泉拠点事業、福祉事業津谷拠点事業、福祉事業大谷拠点事業、公益事業小泉拠点事業の財務については、貸借対照表の数値を基に証書、帳簿、通帳を照合しましたところ、いずれの事業とも資産と負債の係数が正しく示されており、正確なものと認めました。

２、収支決算書の収入・支出の係数並びに財産目録の状況についても、それぞれの係数が正しく示されており、正確なものと認めました。

３、新規事業への取り組みとして、用地取得を始め、施設建設事業や、職員の確保とともに、保育所入所者や、ケアハウス・ディサービス利用者の確保など多くの事務への対応もあり、多くの事務事業にもかかわらず、経常増減差額は６，３１８，５２８円と昨年度に比べ、１，９０７，４００円増額し、次期繰越活動資金は、５１１，３４５，７５９円、うち当期決算では１１，１６２，８７１円を計上するなど積極的に事業展開している。

以上の事などから、平成２９度の春圃会の決算は適正であると認めましたので報告致します。

# 平成29年度業務監査報告

平成３０年５月２９日
監事　菅原　貞芳

1　法人経営・事業運営の状況

○　平成２９年度の法人経営・事業運営方針の柱を次の３点に押さえ、その感想を以下述べたい。

1）サービスの質の確保

①　各部署リーダーとの面談から

苑是「和」の実現をリーダーを中心に各部署で目指している。また、各部署リーダーは専門職としての自覚と熱意を持ち、それぞれが前年度の課題を改善しようと意欲的に取り組んでいることがうかがえた。

②　職員と施設内の掲示物等から

笑顔あふれる春圃苑を目指そうという職員目標のとおり、来訪者に対する職員の挨拶は明るく丁寧である。また、玄関や廊下をはじめ施設内の掲示物には季節感のある心和む雰囲気が醸し出されている。

③　職員研修から

良質なサービスの提供をめざし、職員の資質向上を図る職場内研修に延べ８００人が受講し、出張研修には延べ５５０人が派遣された。多忙な勤務の中で職員研修が充実していることは春圃会の大きな特徴である。

宮城県老人福祉施設協議会主催の実践研究発表会では全県で１４組の発表のうち本会６部署から各１組の実践発表が行われ、優秀賞に３組、奨励賞に３組が受賞した。良質な介護サービスの提供を目指す本会職員の意欲的な取組が評価されている。

④　保育所の開所から

子育て世代の女子職員の勤務環境改善を図るために職員の子女を対象とする企業主導型保育所が開所した。保育所は人材の安定的な確保、事業拡大の面からは勿論、児童と利用者様との交流面からも今後大切に育てていきたい施設である。

2）人材育成と資質向上

①　人材確保の面から

時代の要請を踏まえ、先を読んだ法人経営と事業運営がなされている。他事業所が人材確保に苦労している中、本会では障がいを持っている方の雇用や育児休業が取得しやすい労働環境の整備をも行っている。このことは福祉施設のあるべき方向性を示している。

②　勤労意欲と職員研修費から

介護報酬の１％をめやすとして職員研修費を支出して人材を育成している本会の継続的な取組は全国的にもめずらしい。職員の資格取得率は施設ケアのレベルを測る目安になり、経営や人事管理上からも資格取得者の人数を増やすことが求められている。資格取得に係る費用を助成したり、介護職以外の職員に対して法人独自の財源を充当して処遇改善に努めたりしていることが職員の学ぶ意欲や勤労意欲を向上させている。

③　東日本大震災の絆から

東日本大震災時に支援していただいた社会福祉法人芦別慈恵園と連携し、平成２９年度も本会職員と芦別慈恵園職員の交換研修が実施された。将来を担う基幹的人材育成につながる取組になっている。

3）地域福祉への寄与

① ケアハウス大谷春圃苑と春圃苑大谷デイサービスの開所

介護サービス付きのケアハウスを大谷地区に開所したことは、団塊の世代が７５歳以上の後期高齢者となる２０２５年に向けた介護サービスの充実を図るものである。気仙沼市地域包括ケアシステムの一翼を担うものと行政からも期待が寄せられている。

② 法人独自の事業「もとよし介護フェスティバル」の開催

平成２９年１１月１２日に開催された。気仙沼市立本吉病院長齋藤稔哲先生と特定非営利活動法人仙台敬老奉仕会理事長吉永馨先生による講義があり、本会の専門資格を有する職員と調剤薬局職員による相談ブースで来場者からの相談にそれぞれ応じた。福祉機器、福祉車両、福祉用具専門店等の展示スペースを含め６００名を超す来場者は福祉への知識や理解を深めることができた事業になった。

③ ボランティア活動団体への助成金交付

地域福祉に関わる地域住民や高校生のボランティア活動を社会福祉法人として支援している。これは全国でも数少ないモデルと言え、今後も継続していきたいものである。

④ 職員のボランティア活動

職員は「地域クリーン作戦」や「マンボウサンバ大会」に参加するなど自主的に活動を展開している。また、苑主催の敬老会では苑職員として虎舞や花笠音頭のアトラクションなどに積極的に取り組んでいる姿が印象的であった。夏祭りを含め、苑及び職員が有する資源・機能を生かした取組が地域の信頼を得ることにつながっている。

2 今後の取組に向けて

(1) 実践発表会

県の実践研究発表会で発表予定の職員がご利用者のご家族や一般の方々に対し春圃苑施設内で事前発表する機会を持ってはどうか。日々の取組を職員以外の方々に理解していただく絶好の機会として位置づけたい。

(2) アンケート調査（満足度調査）

開かれた社会福祉法人として、すべての利用者様やそのご家族を対象に年１回春圃会の事業や職員の取組等についての率直なご感想やご意見を頂き、その結果を「春圃会だより」等で発信してはどうか。利用者様やご家族様のご意見等を真摯に受け止める機会をサービスの質のいっそうの向上につなげたい。

(3) 計画書と報告書

計画書から事業報告書に至る「目標～実践～評価・反省～課題」の一貫性のある流れをつくるために、各部署において１年間継続して取り組めば到達可能なレベルの目標を「重点目標」として共通理解したい。さらに、重点目標を達成するために当該部署で１年間どのような取組をし、どんな成果や課題が生まれたのかについて重点目標ごとに項立てて「事業報告書」に記述したい。

(4) 専門用語に基づくカタカナ言葉

事業計画書や事業報告書は苑のＰＲ誌と言えるもので、一般の方々の目に触れるものでもある。研修の成果であろう専門用語をカタカナ言葉で表記し、補足説明無しで使用されていることが気に懸かる。苑の日常の取組を計画書や事業報告書をとおして理解されている方々のためにも、専門用語に基づくカタカナ言葉の後には括弧書きで平易な日本語で補説する配慮を求めたい。